

親鸞さまの

【本文】

不思議の仏智を信ずるを

ほうど 因としたまり

信心の正 因うることは

かたきがなかになほかたし

【意記】

煩惱の人間の心や言葉で到底捉ええることができないほどの智慧を具えておられるのが阿弥陀様です。その仏様の極楽と連れ行く、抛り所にしておくれというお心を聞き信ずることによって、

極楽往生という因果関係が生じます。

そのお救いを信じる心を得ることは

人が独力で為すこと決してできません。全て阿弥陀様のお力でこそ可能になるのです。ただひたすらに、その御心を聞き信じましょう。

【私の味わい】

ダイヤモンドに非常によく似た人工石があるそうです。見た目はよく似ていますが前者の宝石が天然であるのに対して、後者は様々な材料を圧縮して出来ているという違いがあります。価値、希少さに大きな開きがあるという見方もあります。最も注目したいのは生成の過程で、人の手が加わったかどうかです。前者が100%人の手が加わっていない原石であるのに対して、後者は100%人の手が加わっています。

人生相談では、「生きる意味」、「死の悲しみをどう受け止めるか」という質問がよくあります。私は、仏教の観点から極楽往生を前提とした生と死について回答を書くことが多いです。しかし、人によって違いますが、私の感覚だと多くのケースでその様な回答を求めたり、その後の人生に反映させようとしている人は少数派です。仏教、宗教に救いを求めるというより、自分の考え、世界観を前提にした非宗教的な方向での生死を中心に据えた上で、補助的に役立つアドバイスを求めている場合が多いです。

人が自分で作り上げる生きる意味、命終える意味は何処まで行っても人工石ではないかとこの頃強く感じます。仏様が既にお与えくださった、人間の手が入っていないものにこそ本当に自分を生かすしめる、死することを受け止めしめる宝石の輝きがあると思います。人が作つたものはどれだけ強固であつても壊れ易いものであり、人と共有しにくいものでもあります。しかし、私、私達は決して壊れ、無くならない宝石を身近な人と同じく称え、安心して共にすることができそうです。このご縁を喜んで、（悠本